安 全 デ ー タ シ ー ト

炭酸コバルト

飼料品質改善協議会
プレミックス研究会
作成年月日：2026 年 2 月 20 日

1. 化学品名及び会社情報

化学品の名称	炭酸コバルト
供給者の会社名称	ロック化学製品株式会社
住所及び電話番号	東京都目黒区碑文谷五丁目 29 番 10 号
	TEL：03-5731-9569
用途	飼料または飼料添加物
使用上の注意	なし

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

物理化学的危険性	爆発物	分類対象外
	可燃性ガス	分類対象外
	エアゾール	分類対象外
	酸化性ガス	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	区分に該当しない
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	区分に該当しない
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性化学品	分類できない
	鈍性化爆発物	分類できない

健康有害性	急性毒性（経口）	区分 4
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類対象外
	急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性／刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	区分 1A
	皮膚感作性	区分 1A
	生殖細胞変異原性	区分 2
	発がん性	区分 2
	生殖毒性	区分 1B
	生殖毒性・授乳に対する又は授乳を介した影響	分類できない
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 3（気道刺激性）
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分 1（呼吸器、血液系）
	誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性　短期（急性）	区分に該当しない
	水生環境有害性　長期（慢性）	区分に該当しない
	オゾン層への有害性	分類できない

GHS ラベル要素

絵表示または
シンボル

注意喚起語　危険

危険有害性情報
- 飲み込むと有害
- 吸入するとアレルギー、ぜん息または呼吸困難を起こすおそれ
- アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- 遺伝性疾患のおそれの疑い
- 発がんのおそれの疑い
- 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
- 呼吸器への刺激のおそれ

	長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器、血液系の障害
注意書き	
安全対策	取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。 使用前に取扱説明書を入手すること。 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
応急措置	飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。 特別な処置が必要である。 口をすすぐこと。 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。 皮膚に付着した場合：多量の水／石けん（鹸）で洗うこと。 皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。 気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。
保管	施錠して保管すること。 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
廃棄	内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	化学物質
化学名又は一般名	炭酸コバルト

慣用名又は別名	炭酸コバルト
化学物質を特定できる一般的な番号	CAS No.513-79-1
成分及び濃度又は濃度範囲	Co として 43.0%以上
官報公示整理番号	1-126（化審法・安衛法）

4. 応急措置

吸入した場合	呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。 新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で安静にさせる。 意識がないが呼吸がある場合は、横向きに安定した姿勢で寝かせ、低体温症から保護する。 気分が悪い時や呼吸に関する症状が現れた場合は、医師の診察／手当てを受けること。 気道/呼吸器疾患の刺激が発生した場合:できるだけ早く、グルココルチコイド吸入スプレーを吸入する。 以上、GESTIS 参照。
皮膚に付着した場合	直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。 皮膚に付着した部分を流水またはシャワーで洗い流したのち、水と石けん（鹸）で丁寧に洗浄する。 刺激がある場合: 医師の診察／手当てを受けること。 以上、GESTIS 参照。
眼に入った場合	眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 以上、GESTIS 参照。
飲み込んだ場合	口をすすぎ、吐き出す。 意識がある場合は、コップ 1～2 杯の水を飲ませる。 自然嘔吐の場合は、嘔吐物が呼吸器に侵入するのを防ぐため、頭を胸より低くし、うつぶせの姿勢にする。 以上、GESTIS 参照。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な微候症状	急性: 皮膚および気道への感作 慢性: 気道のアレルギーまたは刺激的に条件付けられた反応、肺の損傷(線維症)、アレルギー性皮膚疾患 高用量レベルでは、心臓への損傷、血液形成および甲状腺

	機能への影響 以上、GESTIS 参照。
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する
医師に対する特別な注意事項	情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	周辺火災に応じて水噴霧、粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素を使用する。
使ってはならない消火剤	火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状注水を避ける。
特有の危険有害性	火災等の場合は、毒性の強い分解生成物が発生する可能性がある。
特有の消火方法	火災の場合：区域から退避させ、爆発の危険性があるため、離れた距離から消火すること。 消火活動は風上から行う。 火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火作業の際は、適切な保護具や耐火服を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	直ちに、すべての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。 二次災害の防止策： プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぎ、排水溝や下水溝への流出を防ぐ。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。 水で湿らせ、空気中のダストを減らし、分散を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱注意事項	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。 すべての安全注意を読み理解するまでは取り扱わない。 容器を転倒、落下させ、衝撃を加え、または引きずるなどの取り扱いをしない。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしない。 取り扱い後はよく手を洗う。 湿気、水、高温体との接触を避ける。
保管	
安全な保管条件	容器を密閉して、高温、多湿を避ける。 施錠して保管する。
安全な容器包装材料	データなし

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	0.02 mg／m^3（as Co）
許容濃度（ばく露限界値、生物学的指標）	ACGIH（2007 年度版）：TLV-TWA 0.02 mg/m^3（as Co） 日本産業衛生学会（2011 年度版）：0.05mg／m3（as Co）
設備対策	ばく露を防止するため、装置の密閉化または局所集じん装置を設置する。
保護具	
呼吸用保護具	適切な呼吸器用保護具を着用する。
手の保護具	適切な保護手袋を着用する。
眼、顔面の保護具	適切な眼の保護具を着用する。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用する。
特別な注意事項	衛生対策：取り扱い後は良く手を洗う。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	微粉末
色	淡赤色
臭い	無臭
融点／凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし
可燃性	不燃性

爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	データなし
引火点	不燃性
自然発火点	不燃性
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	2.7 mg/100g･水(15℃)、希酸、炭酸水素アルカリ、炭酸アンモニウム溶液に熱時可溶。空気中で加熱すると CO_2 を放出し、酸化され Co_2O_3 となり、さらに高温では還元され Co_3O_4、次いで CoO になる。
n-オクタノール／水分配係数（log 値）	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし
その他のデータ	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	データなし
化学的安定性	水にほとんど不溶だが、希酸には炭酸ガスを発生して、徐々に溶ける。
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	加熱、日光
混触危険物質	データなし
危険有害な分解生成物	データなし

11. 有害性情報

急性毒性

経口	急性経口毒性（RTECS）LD_{50}＞640 mg/kgラットに基づいて区分４とした。 急性毒性では、コバルトとして、 経口：ラット LDL_0＝1500 mg／kg 筋肉：ラット LDL_0＝112 mg／kg 吸入：ラット LDL_0＝25 mg／kg

	経口：ウサギ LDL_0＝20 mg／kg
経皮	データなし
吸入（蒸気・粉じん・ミスト）	データなし
皮膚腐食性／刺激性	データなし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	データはないが、結膜、角膜を刺激する事が知られている。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性：コバルト及びコバルト化合物として日本産業衛生学会にて第１群(産業学会勧告(2011))、ＥＵにてR42/43(EU-Annex-1)に分類されていることに基づいて区分１とした。 皮膚感作性：コバルト及びコバルト化合物として日本産業衛生学会にて第１群(産業学会勧告(2011))、ＥＵにてR42/43(EU-Annex-1)に分類されていることに基づいて区分１とした。
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	ACGIH(2001)で、A3(cobalt and inorganic compounds として)、LARC(1991)で Group2B(cobalt and cabalt compounds として)、日本産業衛生学会で第２群 B（コバルト及びコバルト化合物として）に分類されていることに基づいて区分２とした。
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	データなし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	本製品のデータはないが、長期間コバルトを含む粉じん、フュームまたはミストを吸引すると重度の呼吸器系疾患を引き起こす。過敏な人は吸引すると呼吸困難となる気道障害を引き起こす。また、無機コバルト化合物の反復ばく露により、呼吸器、心筋への影響があることが知られていることから区分１（呼吸器、心臓）とした。
誤えん有害性	データなし

12. 環境影響情報

生態毒性	水生環境急性有害性：データなし
残留性・分解性	データなし
生態蓄積性	水生環境慢性有害性：データなし

土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

13. 廃棄上の注意

化学品（残余廃棄物），当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で，かつ，環境上望ましい廃棄，又はリサイクルに関する情報	残余廃棄物：廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従う。 汚染容器及び放棄：都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理する。排水溝への流出は、できるだけ避ける。

14. 輸送上の注意

国連番号	非該当
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	輸送に関しては、容器の破損、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を行い、乱袋に注意する。 食品と一緒に輸送してはならない。
国内規制がある場合の規制情報	非該当

15. 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

化学物質管理促進法（PRTR 法）	第一種指定化学物質　1-132 号 コバルト及びその化合物
労働安全衛生法	第 57 条名称などを表示するべき対象物質（表示対象物）
毒物及び劇物取締法	非該当
飼料安全法	飼料添加物（炭酸コバルト）

16. その他の情報

この安全データシートは、いくつかの情報を参考にして、飼料品質改善協議会 プレミックス研究会が作成したものです。全ての資料や文献を調査したわけではないため、情報に漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じることがあります。重要な決定等にご利用される場合は、別途資料や文献を調査し検討するか、試験によって確かめることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は通常の取り扱いを想

定しており、特殊な取り扱いの場合には別途注意が必要になることをご配慮ください。

＜引用文献＞

- 厚生労働省 職場のあんぜんサイト：モデル SDS「炭酸コバルト（Ⅱ）」
  2025 年 3 月 14 日改訂版

＜改訂履歴＞

版	日付	内容
初版	2001 年 5 月 18 日	―
第 2 版	2014 年 11 月 20 日	GHS 対応
第 3 版	2015 年 12 月 4 日	文言修正など
第 4 版	2021 年 12 月 20 日	JIS 改正に合わせて改訂
第 5 版	2023 年 12 月 13 日	労働安全衛生法改正に合わせて改訂
第 6 版	2026 年 2 月 20 日	GHS 分類更新に伴う改訂